

令和2年度奈良県子ども・子育て支援推進会議 議事録概要

●日 時：令和2年12月23日（水）13:15～14:45

●場 所：奈良経済会館

●出席者：荒井知事（会長）

奈良県子ども・子育て支援推進会議委員（委員12名中、10名出席）

川端章代委員、栗木裕幸委員、島本太香子委員、末松保喜委員、

田中加寿子委員、並河健委員、東川裕委員、宮本幸代委員、宮本忠史委員、

和田公子委員

●議 題：1 奈良県のコロナ下における子ども・子育てに係る主な支援について

2 第4次奈良県男女共同参画計画・第2次奈良県女性活躍推進計画

「男女でつくる幸せあふれる奈良県計画」について

3 体罰によらない子育ての推進について

●意見内容・質疑応答

<荒井会長>

○子ども・子育ての課題は絡み合っている構造的な課題であるように見える。奈良県の出生率が低い背景には、子育ての課題や女性のワークライフバランスの課題など様々な要素がある。大きく捉えて、地域構造や課題を解きほぐしていくということを考えているので、ぜひ皆様のお知恵を引き続きお借りしたい。

<栗木委員>

○コロナ下における保育施設の状況として、マスクや消毒液等の購入について一番困ったことは、業者に在庫がないこと。インターネット等も活用して物資の不足の解消に努めた。

○春から秋口まではある程度潤沢に在庫が揃っていたが、いわゆる第3波の頃から、また同じような状況。県からの補助金はあるが、金銭的な支援以外の手立ても知恵を借りたい。

○子ども達への接し方について、最初の頃は子どもたちへの言葉がけがあまり上手ではなかったかもしれないが、子どもは成長するので保育者が工夫することで伝わる。マイナス面ばかりではない。

○保護者の方について、緊急事態宣言の時に施設でお預かりしている子どもの親のもう一つ上の世代（祖父母世代）が子どもに寄り添うということが見えてきた。

<末松委員>

- 陽性の職員が複数の施設で多く出た場合の応援の体制・職員の配置・ゾーニング等について話し合いもしているが、難しいと感じている。
- 慰労金に関して、児童養護施設等は補助金の中で出してもいいという取り扱いだが、保育所は外れている。国からは出なくても、都道府県で独自に出すことを考えている自治体もあり、奈良県においても考えられる余地があるかどうかをお願いをしたい。

<奈良県こども家庭課・矢富課長>

- 児童養護施設において、職員がコロナに感染した場合には、その対応は大変厳しいものになると認識している。これまでに児童養護施設協議会から提出いただいている、施設ごとの応援可能な職員17名による、施設間での応援体制を整えることが必要と考える。この場合、他の施設からの応援職員が処遇にあたる児童は、濃厚接触と特定された児童ではなく、それ以外の児童の処遇に当たるといった体制になると考えている。施設間の応援については児童養護施設の代表者会議で、どのような体制とするのか意見交換をさせていただきたい。

<宮本忠史委員>

- 幼稚園は4月・5月に休園したが、預かり保育を継続。一斉休園が終わった後は新しい生活様式に則り、先生と子どもが密にならざるをえない部分がある中で、間隔をあける等の環境設定に非常に配慮した。人数の多いクラスについては広い場所で食事をするなど、まずは密にならないよう日々心がけている。
- 物資の確保について本当に苦労した。県からのマスクの補助については非常に感謝している。現在は、例えば日々清掃で使うゴム手袋の供給が逼迫しており、供給体制の整備についてご協力をいただきたい。
- 新しい生活様式の中で清掃について詳細に書かれており、清掃時間が思った以上にかかっている。先生に負担がかかり、1時間半～2時間ぐらい清掃にかかっている状況。清掃時間を削減できるよう、作業の見直しを抜本的に実施している。

<並河委員>

- 天理市では、学校や児童施設等において感染が発生したが、保健所や地区医師会と協力・連携しPCR検査センターをつくり、できるだけ早く検査を実施し、個人情報の保護に努めながら市民と情報を共有しており、落ち着いて対応いただいていると思う。
- 施設の職員が感染した時に責任追及のような声の一部見受けられた。どんなに感染対策を徹底してもリスクを完璧にゼロにはできないことや、子ども達の心のケアの面でも決して良い影響ではないということを粘り強く丁寧に発信しており、「傷つけ合うより、支え合い」をキャッチフレーズにして理解を求めている。

- 市の子どもを支援するセンターや拠点ではオンラインの相談体制を作ったが、本当に行き詰まっている家庭にとってはオンラインで気軽に相談することも難しい点があり、子育て支援団体等と連携をしながらアウトリーチの網をきめ細かくしていくことが大切。
- 子ども食堂などについて、県から支援をいただきありがたい。今はまだみんなで食事をするのは難しいが、配食等工夫しながら再開しており、行政も一緒になって絆づくりをしたい。

<東川委員>

- 4月頃から非常に危機感を持ち、消毒に関しては次亜塩素酸水を水道局で作り市民に配布し、マスクについては、市内でスクール水着を作っている会社に裏地を利用したマスクを作ってもらい、子どもや高齢者に配布した。意識付けが非常に大切であり、現在でも、注意喚起や次亜塩素酸水の配布をしている。
- 本県では大阪からの感染者が多いということもあり、近鉄御所駅のホームの入口に「行ってらっしゃい消毒」「おかえりなさい消毒」という文言を掲示し、意識付けをしている。
- 保育士・学校の先生から消毒作業に非常に負担がかかるという声を聞いており、市から長時間消毒できるアルコール消毒液を配布している。
- 御所市ではボランティアの方が実施している地域食堂があるが、地域食堂と子ども食堂の兼ね合いについて未だ縦割りのような状況であり、地域コミュニティとして展開していきたい。
- 並河委員の発言にもあったが人権の問題について差別事象が散見しており、水道関係のチラシに人と寄り添う旨の文言を入れ全戸配布をするなどし、意識付けに力を入れている。

<荒井会長>

- 本県全体の感染累計について1次感染と2次感染以降で分けており、1次感染は県外感染者との接触における感染と定義している。この「県外」を大阪関連と大阪関連以外で分けると、4分の3が大阪関連。さらに、そのうちのほとんどが大阪へ行って感染しており、大阪から来た方から感染したケースは非常に少ない。
- 職場感染は2次感染ということになるが、保育所等での感染は大変少なく、現場で効果的に対応いただいていることに感謝申し上げます。
- 保育とコロナに関するケースをご紹介すると、母親の職場で感染が発生し、母親は陰性だったが子どもを保育園で受け入れてくれなかったケースがあった。受け入れてもらえなかった母親はつらいが、現場の判断も難しく、様々なケースを見ながら合理的に判断できればと思う。
- ひとり親家庭の支援対策について、分析すると原因対策と結果対策に分かれる。ひとり親を発生させないという原因対策は大変難しい。結果対策の中では経済困窮への対策が大きく、多くのひとり親家庭で年収が200万円未満であり、子どもを育てながら生活するのはとて

も大変な状況。仕事と子育てを両立するのが難しいひとり親世帯をどう救うか。一つは働く場を作ること、もう一つは子育て支援であり、その二つに分けてできないかと思う。

- 子育て支援について、市町村と県の役割をどう分担するかという課題がある。国で体制がない現状なので、地域でひとり親家庭を救う方策を奈良モデルにおいて見つけたいという研究を始めており、今後とも知恵を拝借したい。

<島本委員>

- 「パパ産休プロジェクト」研修ツールの動画作成で監修をさせていただいているが、伝え方が一方的にならないよう十分に検討できている点で高く評価している。従来のもは「こうあるべきだ」という伝え方が多かったのに対し、このツールは産後の女性の状態を医学的に理解でき、産後すぐの父親の休暇がなぜ必要なのか等を伝えるという点で良いと感じたので、ぜひこれを広めていただきたい。
- 学生を対象に実施した、コロナによる自身の健康観の変化の調査によると、悪くなったと答えたのが3割、変わらないと答えたのが3割で、残りの4割は健康観が良くなったという回答であった。今までは自分の健康や生活に目が届いていなかった人も、気を配るようになるといった面があることに驚いた。
- 「リプロダクティブ・ヘルス・アンド・ライツ」という言葉があり、性と生殖に関する健康と権利という意味で、私はあえて「性教育」という言葉ではなく、この言葉を使用しており、性感染症の予防等だけでなく、DVや性暴力といったことも権利に関わる問題を含めた教育をしており、男女の性の特性をそれぞれ理解し合い、その特性を知った上で自身のライフコースを考えていくことについて学生もポジティブに受け止めている。

<田中委員>

- 感染症が拡大する時期に親子が外に出てつながりを作っていくことが難しいというのを感じており、子育て支援施設に来られた方だけでなく、来られない方にどのようにアプローチができるかということを模索している。オンラインでのつながり作りも活用したい。オンラインを入口に、さらなる人と人とのつながりに結びつける仕組みづくりも必要。
- 育休中や育休に興味を持つ父親の座談会を先日実施し、職場の理解度に差があること、育休取得後に仕事への意欲が向上したこと、職場の子育て中の同僚に対する理解が上がったこと等の意見があった。
- 県の父親向け・企業向け研修ツールの開発は良いと思う。さらに、若い時から子育てを知ったり、乳幼児と触れ合ったりする機会を作ることも必要。男性女性にかかわらず、誰もが子育てに馴染みがあるような社会になると良いと思う。

<川端委員>

- 計画の「奈良で働き暮らす男女が自らの力を最大限に発揮する」という理念について、「自らの力を最大限に発揮する」というのは社員の成長や企業に望まれる風土など様々な意味を含んでいると思った。仕事と生活の両方で高め合うことを重視していることも、今までのワークライフバランスとは違う点である。
- 先日男性社員から育休を取りたいと申し出があった。コロナ下における経済の落ち込みとともに働き方改革が進んでいる中で、男性の育休については、経営者としての新しい課題と捉えており、社員の権利と企業の経営を両立させていくことに直面しているが、1ヶ月の育休取得を実現させたい。

<宮本幸代委員>

- コロナの感染拡大の影響により、組合への相談は非正規の方が多かったが、飲食業などで働いているパートの方は女性が多く、勤務時間の短縮による収入減が貧困に繋がっており、助成制度などについても相談を受けた。
- 在宅勤務が増えているが、在宅勤務が子育てに参画にも良い影響となっており、産休を取った後、リモートワークをしながら子育てに参画していきたいという職員も出ている。在宅勤務やリモートワークをされている方についても、保育園への入所基準を満たすことが保障される必要があると思う。

<和田委員>

- 島本委員より「リプロダクティブ・ヘルス・アンド・ライツ」について言及があったが、以前、高校の家庭科の出前授業をしたことがあり、例えばそのような場で現場の産婦人科の先生の話聞く機会等を教育委員会で作っていただきたい。
- 父親の育児参画について、やはり子育てにおいてはママの後ろに隠れているパパという印象。そうではなく、パパもママも同じラインの上に立っているような意識をパパ自身が持つことと、子どもをもつという覚悟のようなものが必要。また、父親が子育てについて知る機会を私達も作っていくべきであると考えている。
- コロナ下における相談支援体制だが、私達のところに来られるのは、比較的ゆとりがあり、仕事を持っていない方がほとんどであり、だからこそ誰にも頼らず1人で子育てをしなくてはならないという呪縛にとらわれているように思う。「助けて」を言って良く、ヘルプを出して良いということ、メッセージとして常に伝え続けたい。

<荒井会長>

- 天理市に開設予定の「なら歴史芸術文化村」において、子どもの芸術活動を支援したい。視察したスイスのベルン州の美術館では、先生が教え役でなく聴き役となり、子どもの悩みに

も気づくといったことを実践しており参考にしたい。また、子どもの時に神経が発達するというミエリネーションについて、「なら歴史芸術文化村」に子ども用のバイオリンをたくさん置き、子どもが触って弾いてみることで脳の発達に良いと宣伝したい。

- 男女共同参画について、当初は女性の役割論が根底にあり、その後多様性を尊重しようという動きの中で、トランスジェンダー等が出てきて、日本は付いていけなくなり、後れをとっている印象。夫婦別姓についても、保守的な政治の中で議論が未だに続いている。
- 「奈良の女性を幸せにプロジェクト」というものを作りたい。女性の幸せは働く・自立が大きな要素であり、経済的・精神的従属をせず、自分で働いて生活できるようになってよいと思う。また、女性特有の負担や子育ての不安・負担の軽減は重要であり、それらを守るのは今まで家庭・組織・職場であったが、それを地域でできないかと考えている。
- 地域でできることとして、子ども食堂を増やしていきたいが、子ども食堂があると母親や夫婦の寄り場になり、情報交換をすることで様々な不安の解消につながるということも想定している。
- 健康寿命が長いことも女性の幸せの大きな要素であり、奈良県の男性は全国上位だが、女性は中位であり、女性の健康寿命を伸ばしたい。
- 女性の就業支援について、家庭を持つ女性にとっては大阪に通勤することが難しいため、奈良県の女性の就業率が低いと考えられているが、奈良県の有効求人倍率はとても高く、女性の労働力が非常に求められているため、女性の働き場を駅の付近や住居の近くに設ける、駅ワーク・近所ワークの取組を考えている。
- 奈良の女性の就業率は一番低いですが、管理職比率はとても高く、分析を続けたい。
- 女性の起業家育成について、大和平野中央プロジェクトにおいて、田原本町や三宅町に県立大学工学部の設立を進めているが、スタートアップビレッジというコンセプトの街を作り、スタートアップする人を養いたい。工学部系だけではなく商業系の街として、安い家賃の店舗を置き、女性が出店しやすい環境を作るので、女性の企業家の卵が出てくることを期待している。
- 様々なアイデアをいただく思いでたくさん申し上げた。奈良の女性の活躍について県で施策を推進し少しずつ成果が上がってきている。県でできることがあれば、色々ご指南いただきたい。